

大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会議案

【第 1 号議案】

2008 年度（2008. 7 ～ 2009. 6 ）活動総括および

2009 年度（2009. 7 ～ 2010. 6 ）活動方針

1 . 2008 年度活動総括

（1）研究交流活動

2008 年度は以下のように、2008 年 12 月および 2009 年 6 月に大図研京都ワンディセミナーを開催し、2 回以上のセミナー開催を謳った年度目標を達成できました。1 回目は電子リソース提供に関わる最新のテーマを取り上げ、2 回目は場としての図書館をテーマにして久しぶりの見学企画を行いました。いずれも当日実施したアンケートで好評をいただいています。

なお、2008 年度はセミナー広報に関わる初の取り組みとして、従来のメーリングリスト等のみならず、京都市内の図書館に案内チラシを送付しました。1 回目は、京都府内の大学図書館、2 回目については、府内大学図書館および京都市内の公共図書館を対象にしています。

1) 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」

日時：2008 年 12 月 7 日（日）14:00～16:40

講師：伊藤民雄氏（実践女子大学図書館）

場所：京都市国際交流会館 第 2 会議室

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は 500 円

参加者数：35 名

2) 大図研京都ワンディセミナー「『場としての図書館』を形に - 京都大学附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館の例」

日時：2009 年 6 月 13 日（土）13:15～16:00

案内兼発表者：原竹留美氏（京都大学人環・総人図書館）

山崎千恵氏（元京都大学附属図書館，現人環・総人図書館）

場所：京都大学附属図書館および人間・環境学研究科総合人間学部図書館

参加費：無料

参加者数：38 名

（2）支部報

発行期日の遅れは生じましたが、所定の号数を発行しています。セミナー等の感想や参加報告を掲載し、セミナー等に参加できなかった支部会員への情報提供をはかるとともに、「本の紹介」等のシリーズ記事も復活させています。また、寄稿については、会員はもとより非会員からも幅広く得ることができました。

今年度、発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.265(2008/08/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会を開催しました
- * 2007 年度活動総括および 2008 年度活動方針
- * 2007 年度決算案および 2008 年度予算案、会計監査報告
- * 2008 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 大図研京都ワンディセミナー「大学図書館と著作権」参加報告(宮嶋牧子)

2) 支部報 No.266(2008/10/15 発行)

- * 京都ワンディセミナーのご案内
- * 全国大会参加報告 その 1 参加しないとわからない！全国大会とは。(山下ユミ)
- * 支部委員挨拶
- * 全国大会参加報告 その 2 第 39 回全国大会(福岡)全体会での京都支部からの発言について(赤澤久弥)
- * 大学図書館問題研究会忘年会開催のお知らせ

3) 支部報 No.267(2008/12/15 発行)

- * 新春合同例会のご案内
- * 第 10 回図書館総合展参加報告：全図書館関係者が参加できる一大祭典へ(佐藤翔)
- * 第 10 回図書館総合展報告：総合展の舞台裏(池田貴儀)
- * 大図研京都数珠つなぎ(長坂和茂)

4) 支部報 No.268(2009/02/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催報告
- * 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」参加報告
 - 電子リソースの時代に大学図書館がやるべきことは？(筑木一郎)
 - 電子リソースの活用を考える - ワンディセミナーに参加して(村井正子)
 - 実践女子大学・短期大学図書館の事例と DOAJJ について(寺升夕希)
- * 本の紹介 第 6 回「和本入門：千年生きる書物の世界」(赤澤久弥)

5) 支部報 No.269(2009/04/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催のご案内
- * 『滞在型図書館』を目指して(大図研近畿4支部新春合同例会「公共図書館の運営と施設 - 田原市中央図書館を例に」(森下 芳則氏)参加報告)(上村孝子)
- * 図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス-R』の舞台裏(上山卓也)
- * 本の紹介 第7回 統計学を学ぶ(山田裕子)
- * 支部報 No.268 に関するお詫び
- * 異動 / 退職に伴うアドレス / 住所変更のご連絡のお願い

6) 支部報 No. 270(2009/06/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第32回京都支部総会のお知らせ
- * インターネットの海で、安全で適切に溺れる法(西川真樹子)
- * 中国短期研修体験記(野間口真裕)
- * 大学図書館問題研究会第32回京都支部総会第1号議案
- * 大学図書館問題研究会第40回全国大会のご案内

なお、現在、支部報のバックナンバーを国立国会図書館への納本や電子化により、適切に保存していく方策を検討しています。また、支部報に掲載された原稿は従来から寄稿者の希望により支部サイトで公開していますが、新たに機関リポジトリ等への掲載指針を策定し公表しました。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

ホームページでは、イベントのお知らせや、支部活動の記録等を定期的かつ迅速に掲載しています。また、支部報目次発行年月日の遡及入力(除 No.151~169)を完了するとともに、執筆者名を記載しました。2009年6月22日現在、6,067アクセスを得ています(アクセスカウンター設置:2006年8月22日)

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.60(2008年9月1日)から no.81(2009年6月25日)を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月1回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、年度末現在67名で、年度当初と同数です。会員数変動の内訳は、新規入会者5名、退会者5名です。定年退職に伴う退会がありながらも、新規会員を得ることできています。2008年度は勧誘活動の一環として、1.(1)のセミナー案内チラシ送付にあたり、

入会案内を併せて送付しました。また、新入会員受付時の対応をマニュアル化し体制の整備をはかりました。

加えて、支部委員会の連絡および情報共有体制の強化のため、フリーの Web サービスを利用して、支部委員会連絡用メーリングリストの移行と運営マニュアルの共有化を実現しました。

(5) 財政

昨年度に引き続き、支部委員会の重点課題として、会費納入率の向上に努めました。結果、継続課題であった長期滞納者 0 名を達成することができました。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、未納率を下げることができました。各年度の未納率は次のようになっています。2006 年度以前 0 %、2007 年度 2 %、2008 年度 12 %、2009 年度 68 %。

2. 2009 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てるため、セミナー等を 3 回程度、開催します。また会員間のコミュニケーションの促進や研究交流活動の周知等のため、支部報の発行のほか、ホームページの充実、メーリングリストの運用、メールマガジンの発行について、一層の努力をします。さらに地域における積極的な参加を促すため、京都の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

(2) 支部報

今年度も継続して、定期発行と正確で読みやすい誌面作成に努めます。自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう努力します。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、ホームページを随時更新するとともに、メールマガジンを定期的に発信するように努力します。また会員間コミュニケーションの促進のため、ホームページの会員リンクやメーリングリストを引き続き提供します。なおホームページ維持費の節減やコンテンツ拡大に対応するため、ブログバイダーの変更等の方策を検討します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に務めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

(5) 財政

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行うことで、会費納入率の向上に引き続き努めるとともに、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。また支部活動費の削減・効率化のため、2.(3)のとおり、経常支出であるホームページ維持費の見直しを行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、セミナーの開催数の増加等、研究交流活動の一層の充実策を検討します。